Ⅰ　出題意図

［問１］地球温暖化のような大きなスケールの問題を把握するためには、「肌で感じる」という人間の生来の認識のみでは不可能であり、計算やコンピュータの力を用いることで把握が可能になるということが読み取れているか、読解力を問うている。内容を理解し簡潔に説明することができる力を求めている。

［問２］下線部の比喩表現を、本文を踏まえて具体的に説明できるかどうかを問う。本文ではハイパーオブジェクトとして、地球温暖化やウイルスなどが例示されている。「じかに張りついてくる」ことの具体例として、ウイルスが粘膜に付着することや、地球温暖化による夏の暑さに皮膚を焼かれることが記述されている。これを理解して的確に説明できる力を求めている。

［問３］人間は、生来そなわっている、「感じる」力に加え、計算やコンピュータ等の力で人間のスケールを超えた地球規模の課題を把握することができるようになった。計算により人間の認識を拡張できるようになったのである。しかしそれで、現在人間が直面する課題を解決できるわけではない。筆者は、人間を自然の頂点に置く「人間中心主義」の限界を指摘し、一つの「正しさ」や「確実さ」ではなく、別の尺度がありうるという多様な視点を持つこと、また、「他者の存在に耳を澄ませ」ていくことの重要性を指摘している。このような論旨をつかんだうえで、これからの社会に向き合う人間に必要な姿勢を、自らの言葉で説明する力を求めている。論理性と独自性、文章力を評価する。

II

出題意図

フィンランド在住の社会学者、朴沙羅氏の連載エッセイからの出題。

［問1］　筆者の言う「眼球」の意味を本文の文脈の中で理解し、「無意識」「前提」「当たり前」「ステレオタイプ」などの言葉を用いて的確に表現できるかを問う。

［問2］　筆者は近所の自転車屋さんのことを肌の色からフィンランド人ではないと無意識に思っていたために、彼が流暢なフィンランド語を話すことに驚いた。また筆者に日本のお正月について質問した人は、「日本人」的な外見をした筆者のことを日本人だと無意識に思っていた。両者は外見から無意識に相手の国籍やルーツを判断し、それ以外の可能性を排除している点において共通している。これを理解して説明できるかをみる。

［問3］　筆者は社会学者かつ在日コリアンとしての視点、そしてフィンランド生活での経験を踏まえて、普段我々が「日本」「日本人」「日本文化」を考えるうえで無意識に抱いている前提に注意を向けてみることの重要性を喚起している。筆者のメッセージを適切に理解し、自分なりの見解を論理的に表現することができるかをみる。